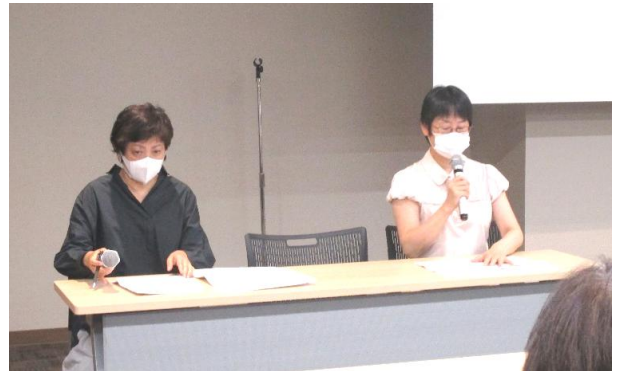


## コロナ禍 2 年目 反貧困ネットワーク広島 定期総会 苦労や制限を乗り越えて活動を進めて行こう

6月26日、広島弁護士会館において総会を開催しました。依然コロナ禍にあり昨年と同様「できるだけ会場に来ないで」と不思議な呼びかけにより出席者 15 人委任状出席者 76 人、役員の一部にはオンラインでの参加となりました。役員の任期満了に伴い、役員選任（全員が再選）の手続きをおこないました。

2020年度の活動報告では、コロナ禍により県外移動が極端に制限された影響や、一人10万円の特別給付金が支給されたこともあり、生活保護の申請が減少。結果、各区役所生活課からのシェルター利用申し込みも大幅に減り、一時的に空き室が増えたことが報告されました。



活動方針の議論では、フードバンク広島や当団体に直接、食料支援を求めて来られる方が多いため、社会福祉協議会に個人への食料支援の柔軟化について要請していくべきではないかとの提案が出ました。

大手町事務所でのほっとサロンが再開できず、近隣の施設（ゆいぽーとなど）でも食事が制限されていることから、憩いの場は定期的に提供しつつ、帰りにお弁当を配布するなど工夫していくことなどを決めました。

## 「ほっとサロン」「まちかど相談会」は再開のめど立たず

昨年からのコロナ禍により、反貧困ネットワーク広島も様々な苦労や制約のもとでの活動を余儀なくされています。

シェルターから自立した人たちが集う、憩いの場「ほっとサロン」は週に3回開かれて毎回10人以上が参加し賑やかに行っていました。また月に一度の食事会も30人以上が集まり大好評でした。

しかし、2020年の2月から「ほっとサロン」も食事会も中止となり、「寂しい」「再開はまだか」という声が多く聞かれます。食事会は公共施設の調理室などで再開しましたが、人数制限のために予約制にするなど感染対策には気がつかれます。

年に4回、広島駅前地下広場で行われる「まちかど相談会」は毎回100件以上の相談が寄せられますが、2020年の3月と6月の相談会はコロナ禍で中止となりました。

久しぶりの開催となった2020年9月の相談会は141件、12月は100件、今年の3月は103件の相談がありました。

しかし、またしても感染拡大により、6月と9月の相談会が中止となりました。12月の「年末年越し相談会」は、7日、8日を予定しています

コロナ禍、食料の支援を求める人が増えています。お米（玄米）、インスタント食品、そうめんなど保存のきく食品が特に必要になっています。引き続き、皆さまからのご協力をお願いします。

# 「フードバンクあいあいねっと」の呼びかけで食料支援団体が集う 食料支援についての対策会議・意見交換会



支援に制限を設けるべきか？が議論に

8月3日、広島県内で食料支援の活動を行っている団体が集まり、現状の問題点と今後の方向などについて、ざっくばらんに話し合いました。このような話し合いは初めての試みでした。

この話し合いは最近のコロナ禍のもと、仕事を無くしたり生活が厳しくなる人が急増し、個人として「フードバンクあいあいねっと」に支援を求めてくる人が多くなっている現状を何とか打開できないかと「あいあいねっと」代表の原田さんからの呼びかけで開かれたものです。

参加者は「フードバンクあいあいねっと」をはじめ「広島市社会福祉協議会」「フードバンクゆるてい」「反貧困ネットワーク広島」でした。

現状としては各団体の窓口で個人的に食料支援を求める人や、各区の社協にも支援を求める人も多くなり、中区の社協では支援物資が無くなるなど、最近の状況が報告されました。

今後の問題として「あいあいねっと」には支援物資は十分に有ると思われるが、生活保護を受けている人たちに求められるまま、制限なく支援して良いのかと問題提起がされました。

しかし、消費期限が近い食料を廃棄処分するよりは、困っている人がいれば支援をするべきであり、その際にケースワーカーとよく相談し、生活指導も必要ではないかと議論されました。

また、地域のネットワークを構築していくことの重要性も確認しました。

参加者の多くから、このような会合を今後も継続的に行い情報交換をしていこうと意見がだされました。

## ホームページを見ての問い合わせが増えています

以前は区役所生活課からの問い合わせがほとんどでしたが、最近はホームページを見ての問い合わせが増えています。

ホームページの利点は怪しい団体ではないと分かってもらえる事です。

相談者が電話で問い合わせをする時、ここに相談して大丈夫なのか、貧困ビジネスではないのかと、不安に思います。その不安を和らげる効果がホームページにあります。

今後はメールでの問い合わせや SNS の活用など進めていきたいと思えます。



### ←ホームページアドレス

会報第1号(2011年7月5日発行)からのバックナンバーも掲載されています。

シェルター利用者の体験談など読んでみてください。

反貧困ネットワーク広島





# シェルターと聞いて不安でいっぱい

## 職員の人の話を聞いて ほっと安心 - 40代男性 -

私は、福岡市で介護タクシーの運転手として働いていました。しかし、昨年からのコロナ感染拡大で仕事がなくなり、とうとう退職を余儀なくされました。

### 関西を目指すも広島に降り立つ

2020年の5月、仕事を求めて関西方面に行こうとしたのですが途中で気分が悪くなり、広島市の横川駅で下車しました。私はアトピー皮膚炎という持病がありその影響もあって駅前で倒れてしまい、救急車で広島の舟入病院に搬送されました。後で聞いたのですが、新型コロナウイルスの疑いで指定の舟入病院に搬送されたのだそうです。コロナの陰性が確認され広島大学病院に転院し、その医療ソーシャルワーカーの紹介で反貧困ネットワーク広島のシェルターを利用することになりました。

### 反貧困？ シェルター？ 不安な日々を過ごす

しかし、病院の相談員の方から「反貧困ネットワーク」とか「シェルター」と言われても何のことかわからず、不安な気持ちで過ごしていました。そのことを相談員の方に伝えたところ「では事前に反貧困ネットワークの人と会えるように手配しましょう」とすぐに対応していただきました。

退院予定の前日、反貧困ネットワーク広島のシェルター管理責任者の成田さんと管理人の日下さんが広大病院までわざわざ来てくれて、シェルターのことや反貧困ネットワーク広島の説明をしてくださいました。そのお陰で不安が和らぎました。



ほっとサロンの食事会で同じ境遇の人たちと出会う

### 生活保護の申請に難儀

#### ケースワーカーの対応は冷たく

しかし、大変だったのは病院を退院したあとでした。横川駅で倒れたので、生活保護の申請の受け付けが西区の福祉事務所でした。福祉事務所からの「扶養照会」の問い合わせに対して驚いた父親が「今まで住んでいたから住むところくらいならある」と答えたものですから、ケースワーカーからは「実家に帰れ」「帰って来いと言ってる」と言われ、父は経済的には面倒はみれないと応えたにもかかわらず「住むところがあるのだから帰れ」の一点張りでした。

話しが進まないのでもわざわざ九州から来た父親と日下さんと一緒にケースワーカーと話合った結果、やっと保護の決定が出されました。

その後も反貧困ネットワーク広島の皆さんには、住宅や家具などの手配で大変お世話になりました。また、日々接していく中で本当に困っている人たちのために活動しているのだと感じました。

### 何でも相談できる場所

私自身も最初はどのような団体なんだろうと不安もありましたが、ほっとサロンの食事会に参加したりするうちに、同じような境遇の人がたくさんいることを知りました。自分ひとりで悩まず、何でも相談できる場所があるというのは、大変心強い存在であると感じています。

反貧困ネットワーク広島シェルター利用状況  
2009年5月から2021年7月末まで

年代	男性	女性	合計
10代	9	18	27
20代	144	61	205
30代	267	61	328
40代	309	82	391
50代	254	55	309
60代	175	38	213
70代	85	26	111
80代	9	7	16
不明	16	27	43
合計	1268	375	1643

単身 1518名 夫婦 40名 親子 82名 その他 3名

## 気軽にカウンセリングを受けてみませんか？ 気持ちの整理をお手伝いします

産業カウンセラー協会  
専任カウンセラー 安徳 剛

カウンセリングを受けるといって、まだまだハードルが高いと感じる方も多いと思います。そもそもカウンセリングってなんだろうと思われる方も多いでしょう。

私のカウンセリングでは「もやもやしている」「いらついている」「悲しい」「つらい」そういう気持ちの整理をお手伝いさせていただきます。

決して私の価値観を押し付けたり、求められてもないのに、アドバイスしたりは致しません。説教なんてもってのほかです。

しっかりお話を聞かせていただく（傾聴することにより、クライアント（相談者）さんがご自分の気持ちを整理されて、ご自分で解決策を見出していくお手伝いをさせていただきます。

一回のカウンセリングで終わることもありますが、クライアントさんによっては、ご自分の子供の頃に深く長く痛手を負った心の傷が癒えぬまま、苦しみを背負いながら今を生きている方もおられます。そういうクライアントさんには何度でもお話を聴かせてもらい、辛い思いをはき出させていただきます。

クライアントさんから「少し楽になった」「すっきりした」という言葉を聞かせてもらった時は、カウンセラー冥利に尽きます。

ご自分の辛いことや、弱音、しんどいことを他人にしゃべることに抵抗を感じる人もいます。ですが、歯が痛かったら歯医者に行くように、生きづらかったら、気軽にカウンセリングをうけてみませんか。



### 声

#### 私は定期的に受けています

以前受けていたカウンセリングは事務的な対応でしたが、安徳さんは話をよく聞いてくれて、自分は間違っていないかと気がラクになりました。

無料なので、気軽に相談することができて助かります。

カウンセリングは、週に1回1組で予約制です。  
ご希望の方は事務所までお問い合わせください

### 今後のまちかど相談会の予定

9月に予定していた「まちかど相談会」はコロナウイルス感染拡大のため中止とさせていただきます

- ・2021年12月7日（火）・8日（水）年末年始相談会（反貧困ネットワーク広島主催）
- ・2022年3月22日（火）・23日（水）暮らしと心の相談会（広島弁護士会主催）
- ・2022年6月7日（火）・8日（水）まちかど生活相談会（反貧困ネットワーク広島主催）

シェルターのお問い合わせ・生活相談・寄付の受付などは、大手町事務所へ  
平日10:00～17:00 電話 082-545-7709 または 電話 090-4890-1579

発行者 NPO法人 反貧困ネットワーク広島  
広島市中区東白島14-15  
NTTクレド白島ビル7階  
広島総合法律会計事務所内  
電話：082-227-8181 F A X：082-227-1200  
大手町事務所 中区大手町5-16-18バルビル4階

会費・寄付振込先

- 正会員（個人）年会費 2,000円
- 正会員（団体）年会費 5,000円
- 賛助会員（個人）年会費 5,000円
- 賛助会員（団体）年会費 10,000円

広島銀行 白島支店 普通 3235401 反貧困ネットワーク広島  
郵便為替 01390-1-98338 加入者 反貧困ネットワーク広島

ホームページ▼

